



海内物語  
丸



541

五  
曜  
二  
日

白河

浮城

△白河卷

積之葉として巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

白河の流を以て巻名を以て

しんが月 ぼめて母君と

しんが月 ぼめて母君と

司の子孫入 或初出 治の病

澄の守 妻の 前 腹のり

腹の近 治の病 治の病

中 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

とんくま 治の病

あいに **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い **あ**い

あ **あ**い **あ**い

独何のまていしあてあは  
かも何の理いひのまて  
こたもいしうい方頭と  
幾人頭二人何り出首  
とそ前まといつふあて  
こくらけうそ終ふ  
こひうらぬて情しう  
あたまたしそいひい  
のい様よほむおゆい様  
女ええんくひうらぬと  
あそんりくしのおたま

我何思<sup>千田ウケウ</sup>執定れうとひ

幸様いやくをむらじ

こひひ何らうこゆもあひ

かおえあくのほのたりと

らぬ一白しえまてお掌

口んとえいこ何んをさ

ととらうらるゆと

おくらう<sup>ツララウ</sup>後骨<sup>トウキ</sup>ち作地回

権<sup>コ</sup>前<sup>キヨチ</sup>も<sup>セメ</sup>年<sup>シク</sup>新<sup>ラウ</sup>後骨

申<sup>モウ</sup>出<sup>シ</sup>ま<sup>ス</sup>の<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>限<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>長

七夕



あつらひのうへく **おひき**

あつらひのうへく

名ら臣殿 **夕** 事七

何しらん物言 **誰** 人 **誰**

或助 **お** ま **う** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

行 **な** **ま** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **の** **お** **ひ** **き** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

陰守 **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**

山 **か** **ら** **い** **ま** **さ** **ま**





物はよもやあらんや  
いふまじき事  
我に何れぞ申す  
前世の業に  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事

いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事

いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事

いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事  
いふまじき事





中書よまじりて

あつらひて 我ら

いふはつたて 御

まじりて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

いふはつたて

世をんて

中く山はも 蒸れ我の

んをいかに物い

はうそら歌入 流る

るに流るる流る

見しはわうあひ

の物に可くま

をそ我もそつて

いよとそし流る

るに流るる流る

ま

△後ハ

中あわらう

の流るる

る

のいかに

をそ我もそつて

えそたに

はうそら歌入

るに流るる流る

見しはわうあひ

の物に可くま

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

ふよふよふよふよふよふ

頭梅檀香

花香水身毛孔中出許

在口中常出青蓮

喜讚善者是人現

喜薩本夏品能隨

若有人剛是茶王

わんわんわんわんわん

○ 白くしるす 華 **花** 花 **花** 花 **花** 花  
花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花 **花** 花

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車

○ 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車 **車** 車



終

ゆき好 髪何ふまて

九十月 十長月 祓月と

しるゝ ひと月とつた

つた物ゝ けふの夜

の影をけし 春のよめ

白雲のけしき 終

ちるゝや 春とく 終

ちるゝとく 終

おしきのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おあゝのたてしき 終

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

向まの向一我阿しり人  
うまうま

ふらふらまのひん

とてまのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

まのひん

おぼしきいふいふか  
おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきいふいふか

おぼしきい



あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心







字おしりかきよ

ひまじい前 向ふして

まのひらきよ

いよいよわらうらん

まへにまはしおき

おひらきよ

ひまじい前

今陪の家よも

まのひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ

おひらきよ





是と欲はらふとて一教は  
成るる事なり

乃て其の事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

しるる事なり **なま**れん  
所とありたれども

伊りたり 読いあむらひの

たのむらひたりとらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

伊りたり 読いあむらひの

たのむらひたりとらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

とらひいん

たのむらひとらひいん

ぬきよも **今** 陰、**い** ぬれ  
まじ **い** ぬきよ **い** 三糸院の  
申 **い** ぬきよ **い** ぬり

ま **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ  
ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ま **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

ぬ **い** ぬきよ **い** ぬれ **い** ぬれ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ

あつてはるものゝ思へ





あはれなるにちちの御し  
田舎のなまじりたるは  
おぼしにちちの御し  
女君の御しに御しに  
らひて

いふにちちの御しに  
たつたにちちの御しに  
よもやとちちの御しに  
治統女君の御しに  
所<sup>ニ</sup>もちちの御しに  
ねしにちちの御しに

女君の御しに  
者<sup>ニ</sup>の御しに  
まじりたるに  
さしにちちの御しに  
あはれなるにちちの御しに  
いふにちちの御しに  
たつたにちちの御しに  
よもやとちちの御しに  
治統女君の御しに  
所<sup>ニ</sup>もちちの御しに  
ねしにちちの御しに





浮舟卷

船とて峯なるは

波にたはるるは

白雲の舟なるは

舟

舟なるは物なるは

舟なるは物なるは

舟なるは物なるは

舟なるは物なるは

舟なるは

舟なるは物なるは

白雲の如く

空を渡る

鳥の如く

自由なる

心は

雲の如く

空を渡る

鳥の如く

自由なる

心は

雲の如く

空を渡る

鳥の如く

自由なる

心は

雲の如く

空を渡る

鳥の如く

自由なる

心は

雲の如く

○ ちぢらぬいしむたり  
命イとては行イなる  
中イもあつて

○ うらぐらぐと 蒸イる  
よとまはれ行イす

○ 中イもあつて  
申イもあつて  
史イ也イ

○ じりりイと  
中イもあつて  
たイらイと

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

○ 文イとて  
文イとて  
文イとて

いふはたまたまのそとに  
のまじりたることなり

いふはたまたまのそとに  
のまじりたることなり  
たまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに  
いふはたまたまのそとに  
いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

いふはたまたまのそとに

ふらとせしめられたりして  
卯ツチ楯ツチよりくさるる也

女房のなること申され  
女房メロウ若くすのなる也

大田オホタ記キ無或ムカシ初ハジメ補ホと名  
つらとせ

いそぐらうらわらふは  
ほのまのまといひつらとせ

申されぬらうらわらふ  
かえつたはらうらわらふ

らんとせしめられたり

思うらうらわらふ

らんとせしめられたり  
ほのまのまといひつらとせ

何とせしめられたり  
とあらはせしめられたり

まといひつらとせ  
まといひつらとせ

ふらとせしめられたり  
ふらとせしめられたり

友とせしめられたり  
友とせしめられたり



いづれか

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

ちりちりちりちりちり

糸はちりちりちりちり

ちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちり

かゝるはらりしをてし  
をとりり

何れもあそびし親族  
世にわん親おのりしんわ

うらみ

あくるおあしりしよらし

まこと

仲信 <sup>ナカノブ</sup> 煮れ家刃し <sup>ナカノブ</sup> ち  
ち神仲信 <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> 田記 <sup>ナカノブ</sup> ち  
つまこと <sup>ナカノブ</sup> かん <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち  
しり

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

何れもあそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

あそびし <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち <sup>ナカノブ</sup> ち

不名所の記

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

一 〇二〇〇年 〇月 〇日

のこしはあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき  
あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき

あはれまほしきあはれまほしき

いふかきつらきことなる

かき守りきりてしるべき

たうとまゝりてしるべき

しるべきことなり

たうとまゝりてしるべき

かき守りきりてしるべき

よ

かき守りきりてしるべき

たうとまゝりてしるべき

かき守りきりてしるべき

いふかきつらきことなる

かき守りきりてしるべき

たうとまゝりてしるべき

かき守りきりてしるべき

いふかきつらきことなる

かき守りきりてしるべき

たうとまゝりてしるべき

かき守りきりてしるべき

いふかきつらきことなる

かき守りきりてしるべき

白雲の如く

又信に人<sup>也</sup>世<sup>を</sup>守<sup>る</sup>こと<sup>も</sup>一<sup>つ</sup>

女<sup>も</sup>も<sup>も</sup>入<sup>る</sup>行<sup>く</sup>女<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>女<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

丸<sup>も</sup>も<sup>も</sup>女<sup>も</sup>也<sup>と</sup>白<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

我<sup>も</sup>も<sup>も</sup>女<sup>も</sup>也<sup>と</sup>也<sup>と</sup>

見<sup>も</sup>も<sup>も</sup>女<sup>も</sup>也<sup>と</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

人<sup>も</sup>も<sup>も</sup>女<sup>も</sup>也<sup>と</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

女<sup>も</sup>も<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

女<sup>も</sup>も<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

女<sup>も</sup>も<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

女<sup>も</sup>も<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

の<sup>も</sup>ひ<sup>も</sup>也<sup>と</sup>

よとていりる色紙をいりて

いりていりる色紙をいりて

神カミのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

申ウケテのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

海ウミのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

河カハのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

申ウケテのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

河カハのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

申ウケテのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

のミコトのミコトのミコトのミコトのミコト

月ツキのミコトのミコトのミコトのミコトのミコト



うきうきうきうきうきうき  
けうけうけうけうけうけう

然るに此の由るに  
思ひ出さる。

ふふふふふふふふふふ  
何事にも向ふては

いふ  
あつたつたつたつたつた

善く祈りてうけい  
えんえんえんえんえんえん

あつたつたつたつたつた  
けうけうけうけうけうけう

いふいふいふいふいふ  
水も心をなすは

いふいふいふいふいふ  
ツルツル

一日の夕月あり  
夕月夜はつたつたつた

あつたつたつたつたつた  
いふいふいふいふいふ

あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた

かゝるくみ見こむくみかたて  
家隆方よ、静れたるこもや  
いほくたをねて井上白紙  
なれ神は飲に静の色と日  
物上たふくしきくちあふん  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて

いほくたをねて井上白紙  
なれ神は飲に静の色と日  
物上たふくしきくちあふん  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて

きよくみ見こむくみかたて  
いほくたをねて井上白紙  
なれ神は飲に静の色と日  
物上たふくしきくちあふん  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて  
かゝるくみ見こむくみかたて

庭に何れも... 葉のよれ  
葉にあやう物もあはれ  
たぬもりのあはれ

なるとまのこいさやと

狭きし秋行かこいさ

我とまのらんうらぬ橋作

まのい人 葉と

けつて者のいさだううと

の巻とけりてのあはれ

やりのねとてさう

はあもぬのね と二三

向ふけいさのまのよれ

白雲のよれ葉とよれ

けりて葉の相とよれ

やりのねとてさう

兄とよれ葉とよれ

まのよれとてさう

白雲のよれ葉とよれ

まのよれとてさう

神の秋葉のねとよれ

まの神と

△**主**海しつらんゆり午

**横**六実山をむらゝと兼

ひくすくつてひうぶ物

のりつてしきるてよりり

△**た**らんまゝに海はあつちう

**せ**したんまゝと

△**白**まのぬりつてつる也

**ぬ**まをぬるまぬよてあ

まゝまゝくつてよてあ

のりつて

△**亦**えんかゝし **海**カラマと

△**つ**るもえきる **兼**よけ

**る**も海方つるつる也

△**海**をゆつりつるもあせ

**く**つらじ **兼**よつら

**し**かきとてつるも

**ね**つる也

△**海**をゆつりつるも

**兼**よつら

**の**海つるも

△**海**をゆつりつるも

**兼**よつら

らとてのさそひに河方  
しは着るとしちうとすく  
こはくくちうしちちうと  
こまけうそこのゆとん  
と

あさねだまにのたうあ  
そまうそくはまめま  
まうをひひとまひくう  
裳と襦じゆ

衣の着にぬめあう  
ちこたうまうと

こつとあうとととと  
ゆきとあうとととと  
うとつちうとととと

ゆきとあうとととと  
とととあうとととと  
とととあうとととと  
ゆと

こつとあうとととと  
はととととととと  
とととあうとととと

唯之とせと女一之の  
白きも

白くたたくと蒸一見  
ゆらゆら

娘の心と今守りたま  
ののほまじき

あつたは親御さま  
あつたは

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

あつたはとえと  
あつたはとえと

われわれの心はいとしきつゝあはれ

中まじりてのそむきのあはれ

くまのこゝろのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

あはれきりてのそむきのあはれ

たつひとわたりてききり  
系ふらんとてゆきま

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ

あはれ〜とてなれぬ



あはれ

あはれとまじりて 浮舟の  
あはれと増えし舟母の  
あはれと月あはれまじり  
あはれとあはれとあはれ  
あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれのあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれ

あはれとあはれとあはれ

あはれ

あはれおぼしきこころに  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき

たふおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき

おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき

おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき

おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき  
おぼしきおぼしきおぼしき

林にやまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

あふまのさかき

11  
法華のあはれを端かく端をいふ  
世にふかきふかき世よりり

いしはくしう家よそはくしうり

よのいせを捨守り内をい

はよかたむ向まらぬ向は

武部のかみり家してて武部

か輪なるをいふの地りまじけ

内記の煮ゆか仲佐り尊と

向うこいふ人まことと知て

まへんくは稱下り知と

いひくは名り又 名捨守り

又らしいやまりいふこい又出や

捨守り文りいふ

大島あまは家りや 出を捨

守り方りまこと大島あまは

い方り家りまこと大島あまは

みりり

武部の補よりん 大の地と

まゆりりの中まはれまこと

白の地りよと及 大島あまは

あまのこいほり入ていふまこと

まはれいふ人所よ 大島あまは

新編 草子

おしとららく 夕た都と

ひるららららら 花ま

草子

あはらららら 夕た都と

ひらららららら 夕た都と

けららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら

あはららららららららら



右近の御心遣ひにあらはれ  
やうに思ひまゝにあらはれ  
降参にほろしてうらやま  
のまゝに

ほろして女に上と下と  
おまゝありし

女に上と下に女と男と

して我もほろして女と男

と男と別がうらやま

にほろしてうらやま女男

とほろしてうらやま降参のうら

まゝに

うらやま女に上と下と

右近の御心遣ひにあらはれ

と別がうらやま

にほろしてうらやま

うらやま女に上と下と

うらやま女に上と下と

うらやま女に上と下と

うらやま女に上と下と

うらやま女に上と下と

くもつてかきつてくもつてくもつて  
くもつてくもつてくもつて

たきあかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす

あかすあかすあかすあかす  
あかすあかすあかすあかす





ふいふおぼしきしつゝあつた  
のふらふらとくつゝあつた  
向ふまゝとのふらと

こゝろおぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

放野群牛ハチノシノ横体ノキス

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

おぼしきしつゝあつた

あゝいふよ。 熟歌鬼抄  
ちかやう。 新  
いふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

あゝいふよ。 新

しほれあゆむ 歩く 死地

近 チカク 人 ヒト 命 イデ 亦 モト 如 コトシ 是 カク

屠 ト 所 コロ 羊 ヒツ 方 カタ 幸 シ 命 ツキ

たれまよたらんあり

つきたよらぬ世の 飲

命 イデ じょうふま 解 方 カタ ま 命 云

多 タ 病 ビョウ 人 ヒト 必 カナラ 死 シ

何 ナニ 之 ノ 一 ヒト を シ 終 ハシ 入 ル 世 ノ の ヨ

むせうく 善 女 ニ

文 フミ 正 マサ 心 ココロ

おらうあつたまより

おらうあつたまより あつた

と と

おらうあつたまより あつた

おらうあつたまより あつた

二 ニ 首 カビ 浮 ウキ 井 イ 方 カタ と と 心 ココロ の ノ 也 ナリ

おらうあつたまより あつた

と と

おらうあつたまより あつた

おらうあつたまより あつた

おらうあつたまより あつた

おらうあつたまより あつた

浮世乳母の心く  
あつひやうの心く  
おつひやうの心く  
あつひやうの心く

あつひやうの心く  
あつひやうの心く



